



## 帝京大学大学院公衆衛生学研究科 TSPH NEWS 創刊

### 特集：ハーバード特別講義

TSPH恒例のハーバード特別講義が2015年1月に行われました。2011年にTSPHが開学して以降毎年開催され、今年で4回目です。公衆衛生学の5つの基本領域である疫学、統計、保健医療政策学、社会行動科学、環境保健学の各部門から主にハーバード大学の教授を招いて行う集中講義です。この講義は一般にも公開されており、日本にしながら米国ボストンの白熱した講義を体験できます。

毎年人気なのは社会疫学の世界的権威イチロー・カワチ教授の授業です(写真左)。邦訳書『不平等が健康を損なう』などでも知られています。社会疫学とは、社会経済的要因が健康に及ぼす影響を分析する科学です。環境衛生学担当のクリスティアニ教授は米国だけでなく世界各地での環境汚染のコホート研究(長期追跡研究)などを長く行っています。生物統計学のパガーノ教授は『生物統計学入門ハーバード大学講義テキスト』でも知られています。ハーバード大学公衆衛生大学院において生物統計学入門の授業を長くご担当されていました。

今年は初の試みとしてオクスフォード大学からも先生方をお招きしました。同校もまた帝京大学の学術提携校です。コクラン共同計画(Cochran Collaboration)で世界中の研究を吟味分析して保健医療の科学的根拠発信を牽引している先生方による講義でした。根拠の発掘から政策変化に至る流れをグループワークで体験しました。

#### ◎ ハーバード特別講義 2015 概要

##### 生物統計学 2015年1月13日-16日

Dr. Marcello Pagano

ハーバード大学公衆衛生大学院 教授

##### 環境保健学 2015年1月8日-11日

Dr. David Christiani

ハーバード大学公衆衛生大学院 教授/職業保健部門長

##### 社会行動科学(社会疫学) 2015年1月13日-16日

Dr. Ichiro Kawachi

ハーバード大学公衆衛生大学院 教授/社会行動科学科長

##### 疫学&保健医療政策 2015年1月22日-25日

Dr. Martin Burton

オクスフォード大学 英国コクランセンター理事

Dr. Andrew Farnery

オクスフォード大学 ワダムカレッジ 准教授・フェロー

##### 国際シンポジウム 2015年1月15日

災害からの復興とレジリエンス

# 特集：これがハーバード特別講義

2015年1月、第4回ハーバード特別講義が開催されました。

## ▶ ハーバード大学の講義を東京で

米国ハーバード大学の授業がそのまま移動してきたような雰囲気にも包まれた教室。それが帝京大学のハーバード特別講義です。講義は単なる一方通行の授業ではなく、大教室の全体ディスカッション、小グループ討議、毎日の宿題、先生とクラスメートとのコーヒータイム。すべてが本場さながらに行われます。本学教員もそばで質問に応じます。

ハーバード特別講義は本学の大学院生のみならず、学外からも広く履修・聴講ができます。毎年、行政・企業等にお勤めの社会人、他大学教員・学生はもちろん、海外の帝京大学学術連携校からも参加があります。これまでにチュラロンコン大学(タイ)、フィリピン大学、アトマジャヤ大学(インドネシア)、ハルピン医科大学(中国)、台北医科大学(台湾)など、主にアジア諸国からの留学生が多く学んでいます。



**ハーバード特別講義は一般公開。学外からも出席可能です。**

## ▶ 主体的に、活動的に

自ら動くこと。人々や社会を動かすこと。それらは公衆衛生にとって重要な資質です。特別講義期間中は主体的にそして活動的に学ぶことを通じて公衆衛生の学問を身につけます。最長4日間の集中講義ですが、講義中に進んで発言する力、グループワークで培われる力は公衆衛生の実務につながると考えています。

公衆衛生は医学や看護、薬学といった保健医療専門職だけの分野ではありません。社会学、経済学、法学など多様な背景を有した人々がかかわります。研究者だけでなく行政、民間、双方の参加者らが各々の視点からの意見を述べることで、社会での各種利害関係者(ステークホルダー)とのやりとりを意識した授業にしています。

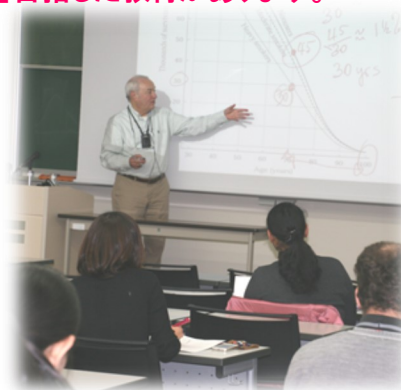
**本学のモットーでもある「実学」を目指した教育があります。**



## ▶ ハーバード特別講義とTSPHの関係

帝京大学はその基本理念に「国際性」を掲げて教育を行って参りました。特に1993年からハーバード大学と学術提携を結び、その後約20年間、帝京-ハーバードシンポジウム(過去9回実施)などの本格的な学術ならびに人どうしの交流を行ってまいりました。2009年の帝京大学附属病院の新病院開院にあわせて行われた第7回帝京-ハーバードシンポジウムの成果をもとに、公衆衛生大学院(TSPH)を創設しました。TSPH創設後は教育に研究に益々活発な交流が続いています。

本学の理念を体現する教員と学生、そしてハーバード大学や欧州やアジア各国の大学との連携。それらを通じて世界中で「公衆衛生」を目指し実践する専門家と価値を共有し、帝京大学SPHは今後も次世代のリーダー育成に今後も励んでいきます。



**ハーバード大学との関係を活動的に20年続けた成果です。**

## ▶ 受講生の声 —学内はもちろん、学外から、海外から—

- ▶ ディスカッションがとても役立ちました。議論を通じて授業内容がよりはっきり、そしてより興味深く感じられました。
- ▶ 異なるバックグラウンドの学生との議論で知識と実務の差を感じました。
- ▶ 多くの質疑応答が理解に役立ちました。
- ▶ 教材が大量だが有益だった。
- ▶ 授業がとてもシステマティックでわかりやすかった。
- ▶ 英語力！
- ▶ 講師二人が時に補足あい、反対意見を述べながら進める授業は新鮮でわかりやすかった。





## 国際シンポジウム & 一般公開ミニ講義 同時開催

ハーバード特別講義の合間の1月12日(月・祝)に帝京大学女性医師・研究者支援センターと共催で「帝京－ハーバード・スピノフセッション 2015」を開催しました。

当日は、ハーバード公衆衛生大学院から2名の先生のミニ講義が行われました。デービッド・クリスティアーニ教授からは気候変動と呼吸器疾患、マルセロ・パガーノ教授からは公衆衛生における生物統計学の役割についてご講義いただきました。このミニ講義は毎年ハーバード特別講義の時期に開催され、どなたでも聴講いただける講義です。

国際シンポジウムでは、テーマを「災害からの復興とレジリエンス」として、様々な立場からの発表がありました。ハーバード公衆衛生大学院イチロー・カワチ教授からは災害時におけるソーシャル・キャピタル(人々のつながり)の重要性、東北大学大学院歯学研究科相田潤准教授からは東日本大震災後の調査研究成果と地域づくり、エル・システム・ジャパン菊川穰代表理事からは子どもたちの音楽を通じた復興支援活動、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン高井明子事務局次長には石巻市の子ども支援について講演いただきました。また、帝京大学の大学院学生有志(代表:石黒彩)からは本学SPHなどで行っている宮城県石巻市での研究の成果発表もあり、活発な議論が行われました。

レジリエンスとは回復力のことであり、災害などの困難から立ち上がる力のことです。国連世界防災会議をはじめ国際社会の災害復興対策のキーワードにもなっています。本学では2013年にも日本学術会議主催「災害に対するレジリエンス構築－再来する災害。再生する社会。」を共催するなど継続して災害のためのレジリエンス構築の課題に取り組んでいます。

当日は シンポジウム終了後も懇親会が行われ、多くの参加者が会話に花を咲かせていました。



### 公衆衛生 はじめの一步 第1回 公衆衛生とは? 回答者 矢野栄二教授(疫学)

第2次大戦後 GHQのサムス准将(公衆衛生福祉局長)は「日本には公衆衛生がない」として、各医科大学に公衆衛生学教室を作らせました。これが日本の大学における公衆衛生の始まりですが、実はそれ以前から各大学には衛生学教室があり、それらはむしろ今の医科大学における衛生学や公衆衛生学教室より学内ではかたに大きな影響力を持っていました。明治期の日本の医学界の著名人には衛生学教室出身者が多いこともそれを示しています。その中でも最も有名なのが森鷗外です。彼について私は講義の中でしばしば「日本人3万人を殺した大罪人」と呼んでいます。彼をそのように最大級の言葉を使って非難する理由は、彼が衛生学は知っていても公衆衛生を知らなかったことが関係しています。衛生学は「生＝人の命」を「衛る」ための学問ですが、公衆衛生は単に衛生に「公衆＝集団」が付け加わったのではなく、理論より実務を重視し、病気のメカニズム解明より、病気が治るかどうかという結果を重視することに本質があるように思われます。まだ公衆衛生の概念が日本になかった明治期に、海軍軍医の高木兼寛は、食事で脚気を予防し、結果として多数の人々を救いました。彼は外洋航路で洋食を食べた水兵の脚気が減るという経験から、脚気は食事が原因という仮説を立て、白米中心の水兵の糧食を変えて兵士の脚気を減らしました。しかし陸軍軍医の森鷗外は「脚気＝伝染病」説に固執してこれを非難罵倒して麦飯禁止令まで出し、その結果一度減った脚気が再び増えて、日清・日露戦争では実に、戦死者の半数近くが脚気による病死でした。

それから130年以上たったいまなお、日本の医学界は本当の意味で森鷗外の過ちを克服できていません。特に大学や学会では相変わらず基礎医学的研究が幅を利かしています。今こそ私たちは実務に根ざし、結果を重視する公衆衛生の重要性を強調したいと思います。

Epidemiology  
疫学

Biostatistics  
生物統計学

Social & behavioral  
sciences  
社会行動科学

Health policy &  
Management  
保健医療政策管理

Environmental  
health  
環境保健学

# TSPH 教員インタビュー 第1回

一研究科長としてTSPHのリーダーである山岡先生。TSPHの教育の特徴をお聞かせください。

帝京大学では大学の建学の精神に「実学」「国際性」を掲げています。専門職大学院である公衆衛生学研究科(TSPH)ではまさに社会の人々の健康を守る課題に取り組む実務家を養成する大学院です。そのために授業でも社会に出て役に立つ教育であることを目的にしています。公衆衛生大学院教育というと基本5領域(疫学・生物統計・社会行動科学・保健医療政策管理・環境保健学)を体系的に学ぶことがよく挙げられますが、体系的な知識の取得だけではなく、実務家としての資質(コンピテンシー)を培う教育を行っています。

一設立5年目を迎えます。今後はどのような展望があるのでしょうか。

新しい教育方法としてコンピテンシーを定めたアウトカム基盤型教育を取り入れています。今後も教育方法に磨きをかけていき、より社会に貢献できるひとを育てる教育に努めていきます。また、国際化に力をいれるTSPHでは、ハーバード特別講義を継続し、アジア諸国をはじめとする海外

の連携大学院との結びつきも一層強化していきたいと思っています。

一今のTSPHの学生さんの雰囲気。どのように感じですか。

とても活気がありますね。大学院生は社会人を経て入学された方が多いのが特徴で、仕事をしていて公衆衛生に関連した問題に気づき、それを解決しようとして大学院に入学した意欲が高い方が集まっています。大学院生は教室以外の居室として全員が大学院生室という部屋で過ごすのですが、そこでも日々自然に公衆衛生の話題や授業の内容について議論が続くようです。多様なバックグラウンドの学生による環境が活気あふれる雰囲気結びついているようです。

一教員についてはいかがでしょうか。

教員もそれぞれの専門分野で活躍しており、国内外に研究フィールドを持つ教員がそろっています。実務家経験が長い教員もおります。本学では講座制をとっていないのでどの分野の教員も同じフロアにおり、教員どうし、教員学生どうしも距離が近いのが特徴です。これが手厚い指導やバランスの取れた公衆衛生の学びの場の雰囲気にあっていると思います。

一先生ご自身の教育で工夫されていることは何ですか。

統計の授業では講義と共に、実践することに力を入れてデータ解析の演習を一緒に行っています。小グループに分かれて取り組む課題を導入して、統計を実践で活かす技能を学ぶことができるよう「実学」を意識した教育を実践しています。試験やレポートだけではなくグループ活動を通じて学ぶのは専門職大学院ならではの取り組みといえるでしょう。

一先生が取り組んでいる研究についても教えてください。

メタアナリシスの応用研究と栄養と生活習慣教育の効果の評価を主に行っています。最近ではソーシャル・キャピタルと健康などについても研究し、東日本大震災後の住民の健康と生活について中長期的な実践的研究にも取り組んでいます。

一教育も研究も共にますます楽しみです。最後に一言

教員、学生、卒業生などみんなでつくるこのTSPH。これからも日本や世界の公衆衛生のリーダーになりうる人材を育てて参ります。



山岡和枝 教授/研究科長

専門：生物統計学

横浜市立大学理学部数学科卒業。国立保健医療科学院などを経て現職。日本行動計量学会理事、社会調査士協会理事。

著書に『ライフスタイル改善の実践と評価：一生活習慣病発症・重症化の予防に向けて一』（朝倉書店 2015）など

担当授業：基礎生物統計学、応用生物統計学、データ解析演習など

趣味：スキー

## TSPHの窓 同窓会始動！

2015年に創立5年目を迎えるTSPH。卒業生も様々な分野で活躍しています。2014年度に同窓会が設立されました。初代同窓会長は第3期生の永田功さんです。早速お話を伺いました。

～はじめまして。帝京大学大学院公衆衛生学研究科同窓会会長の永田功です。同窓会は今年1月に発足し、これから会員皆で発展させていく組織です。まずは卒業生どうしや卒業生と在校生の交流の場を提供し、ゆくゆくは交流を通じてさまざまな学術活動を行い、国内外の公衆衛生の発展に寄与できればと考えております。9月末には同窓会主催の集いを開催する予定です。新入生の皆様にも是非参加して頂きたいと思っています～

TSPHは家族のように、学生どうしはもとより、学生と教員間のつながり、そして卒業後のつながりも大切にしています。卒業生が活躍する時も悩むときも、いつでも帰ってこられる場でありたいと願っています。卒業生は教員一同の宝物。同窓会の今後が楽しみです。

このコーナーでは、学生の声、卒業生の活躍、教員の研究フィールド等、わが校の多彩な面をご紹介します。



同窓会長：永田功（写真左端、卒業式にTSPH同期と共に）

現在、横浜市立みなと赤十字病院集中治療部勤務

救急・集中治療領域の医学臨床研究とヘルスサービスリサーチを行っています。大学院で学んだことをいかに活かしていくか日々奮闘しています。

### 編集後記

今年創立5年目を迎える帝京大学大学院公衆衛生学研究科(Teikyo Graduate School of Public Health: TSPH)ではその魅力をお伝えするニュースレターを発行することに致しました。年間4回発行予定です。一般の皆様には本学の取り組みを、卒業生や学内に向けてTSPHの「今」をお伝えします。

発行：帝京大学大学院 公衆衛生学研究科

お問い合わせ：帝京大学板橋キャンパス 事務部教務課

〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1

TEL: 03-3964-3294(直通)

e-mail: tsphgakui@teikyo-u.ac.jp